

議会だより



今年も豊作 登紀子の田んぼ

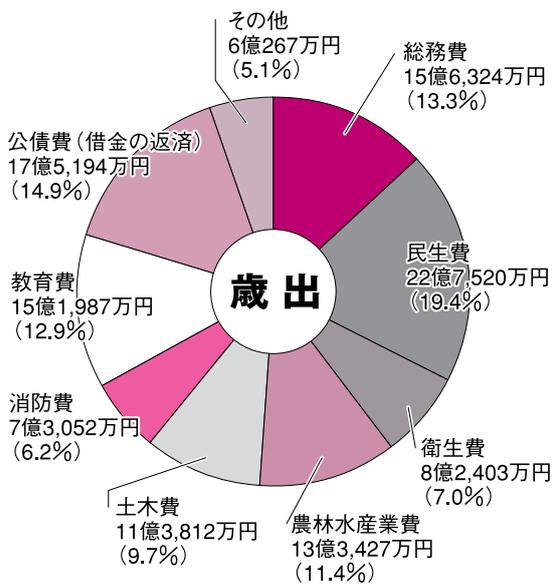
9月定例会

- 19年度決算3億6,000万円の節約 ▶ 2～
- 議員定数等調査特別委員会設置 ▶ 9～
- 来春の開局に向けCATV整備 ▶ 8～
- こんなんどない これどうなってるの 12人が一般質問 ▶ 10～

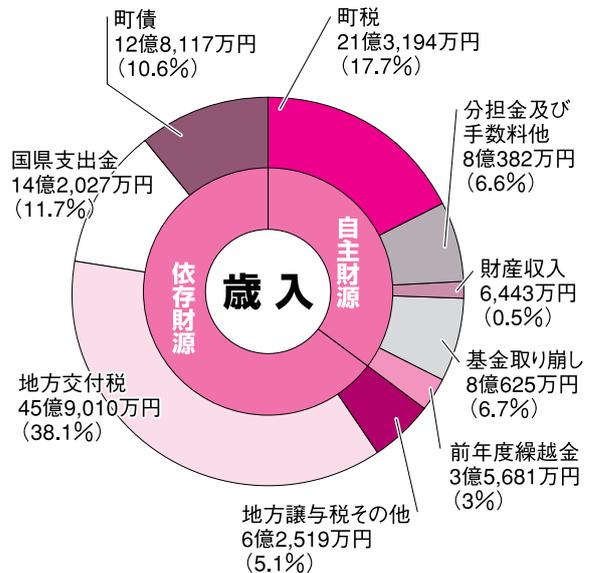
19年度決算

3億6,000万円の節約

歳出 117億3,986万円 (100%)



歳入 120億7,998万円 (100%)



このため、住民税等の徴収率を高める必要があ

た。収入面では、国から税源が移譲され個人住民税の比重が大きくなりました。

同時に基金の取り崩しも進み、基金の残高は、30億5,000万円になりました。

平成19年度末の普通会計の借金残高は184億円で、前年度と比べると1億6,000万円減少しました。

しかし、基金取り崩し等を除いた収支は、4億5,000万円の赤字になりました。

平成19年度は収入と支出のバランスを第一にした、節約型の財政運営でした。

基金取り崩しで対応 一般会計

9月9日から26日の18日間の日程で開催され、延べ13日間にわたって19年度の決算について審査しました。

個人住民税の徴収率はわずかですが上がりました。しかし、固定資産税、国保税の徴収率は低下しています。町税、国保税の未収入額は、合わせて3億4,800万円になっています。支出では、借金の元利払いが約1億2,000万円、ラベンダー園などの公共施設工事費が約1億4,700万円増えました。

水道料金体系の統一へ特別会計

国民健康保険特別会計は、医療費を使われる方が比較的少なく、収支は黒字となりました。町内3診療所では、ジェネリック医薬品の使用に

取り組んでいます。水道事業では、現在各区異なっている水道料金体系を統一する方向で調整が進んでいます。

19年度の主な事業

- 地域特性進展事業
(むらづくり活動助成金) 2,133万円
- 防災行政無線整備事業 3億496万円
- 消防施設整備事業 2,003万円
- 妊婦前後期健康診査費助成事業 347万円
- 地域医療対策事業
(医療確保対策事業) 488万円
- 乳幼児医療制度の対象年齢を拡大 7,350万円
- 第3子以降の保育料減免 1,827万円
- 町営住宅奥中団地、野口団地建設工事 3億1,912万円
- 学校施設整備事業 3億1,318万円
(小中学校耐震補強工事)
- 農地・水・環境保全向上対策営農活動支援事業 1,478万円
- ラベンダー園整備事業 2億2,918万円



新しくなった学校で元気に学んでいます — 杉原谷小学校 —

平成20年・21年度に ピークを迎える借金残高

多可町の平成19年度の借入金残高は、住民一人あたり約74万円、貯金の残高は、約25万円となっています。

借入金の少なくない部分は、国が減らした交付税の代わりにおこなった借金（臨時財政対策債）や、国がおこなった住民税減税の減収分を補うための借金（減税補填債）です。

これらの借金は、元金も利子も国が支払いをします。（交付税算入）

また合併以前から毎年約16億円ほどを借り入れ、学校施設の計画的な整備、八千代区の赤坂トンネルや加美区の丹波加美線の整備をおこなってきましたが、これらの残高が約90億円ほどあります。

これらの借金も、かなりの部分は国が負担することになっています。

これら国の負担する分を除けば、住民一人あたりの借金は、約29万円と

なります。

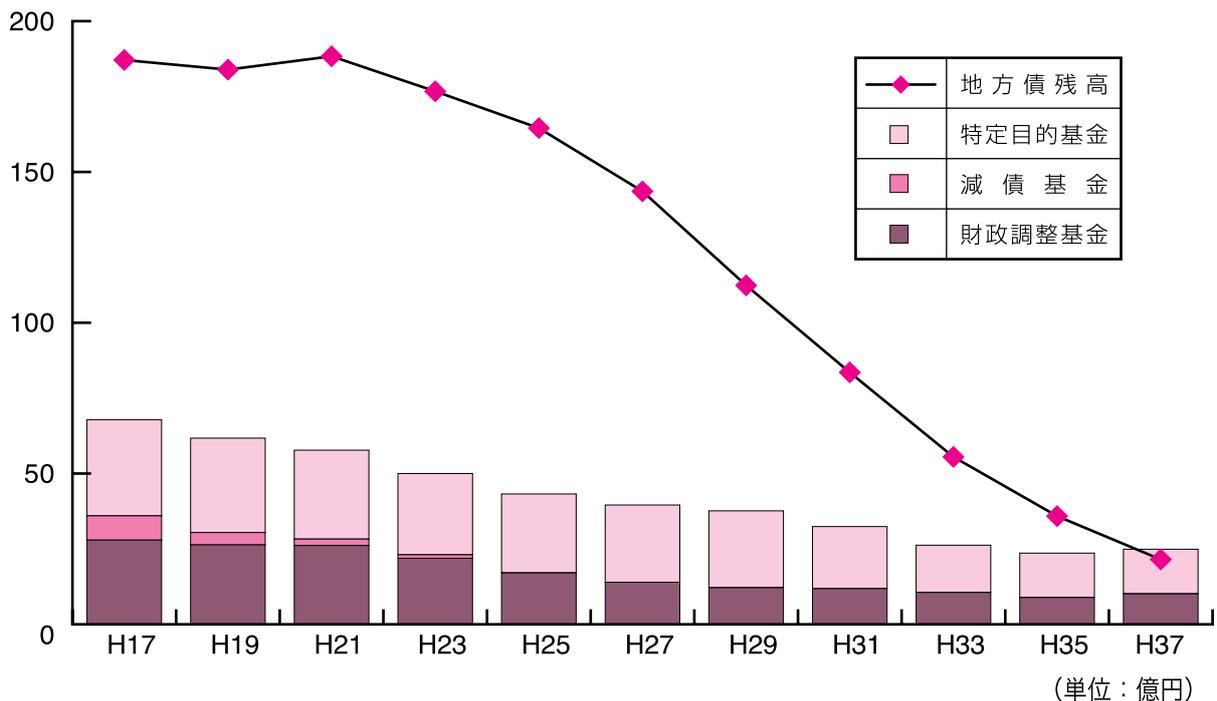
多可町の場合、平成20年・21年度に借入金残高のピークを迎えますが、借入金の7割を国が支払ってくれる合併特例債が活用できる平成26年までに、学校園の耐震補強や建て替え、各区をつなぐ道路建設などを前倒しで実施する計画です。

それらの借金の多くは平成37年度には返済が終わりです。

平成37年度には、借入金残高と貯金残高が逆転する予定です。

※表は町の借入金残高と貯金残高の推移

減債基金、財政調整基金は借入金の返済にも使える町の普通貯金。特定目的基金は、公共施設などの整備にあてるために計画的に積み立てている貯金。



監査意見書



町長に監査意見書を提出する監査委員

滞納者へは

厳格な態度で

歳入面で、税の徴収率を上げるため、県より税務課職員を派遣してもらいました。その結果、個人住民税の徴収率が微増しました。

しかし、固定資産税・国保税の19年度分の徴収率は低下しています。未収入額は、町税1億4400万円、国保税2億4000万円です。

介護保険料、学童保育料や住宅家賃、住宅資金貸付金回収金、下水道使用料等々でも、同じく未収金が増えています。

これ以上滞納を増やさないためにも、町として厳しい態度で対処してください。

少子化対策に

明るい光を

各種の少子化対策への取り組みにもかかわらず、少子化が進行しています。

少子化対策の見直しとともに、少子化に見合った事業の見直し等、抜本的対策に取り組むことが必要でしょう。

放棄田の解消へ

遊休地対策では、管理者のいない優良農地を、担い手がみつかるまで、3年を目途に農林業公社がかわりに管理していますが、この事業は成果を上げています。農業を取り巻く状況には厳しいものがありますが、放棄田の解消に向けても、成果を期待します。

林業には、県民緑税の分配、地球温暖化防止のための国庫補助金が増額されるなど、水害防止機能、動物の森林回帰、二酸化炭素吸収、雇用機会の増加など、多くの重要な役割が注目されています。林業が自立できるための施策を、官民一体となって打ち出していくべきです。

反対討論

住民の協力で経費削減を

安藤弘道

個人情報保護法の関係からか、郵便・電話代が450万円増えています。もっと減らすべきです。また、交通災害保険料の5000円を生活保護世帯にのみ助成するのは、サービスの行き過ぎです。

賛成討論

予算の使いいきり意識をなくす

竹本克之

今期より一般競争入札制度の導入で、落札率は80%を下回る状況になってきたこと。厳しい財政状況の自覚からか、予算使い切り意識が払拭されて、随所に不用品が現れ無駄が大きく改善されてきている一面からも、決算認定に賛成いたします。

収入増で財政基盤強化

大西一好

予算執行率93・55%昨年比4・4%増で、予定事業の完結度は高く、不用額3億6800万円は工事入札の差額や経費削減の努力の跡が伺え予算額に対する収入率96・3%昨年比3・2%増で収入増への努力が評価できます。

反対 1
賛成 16

決算認定

町のとりくみに **喝!!**

議会は、平成19年度決算審査で町が解決すべき地域の課題等を指摘しました。

いま、町で何が起きているのか、町はどのように解決しようとしているのか、1年にわたる町の取組みを検証しました。
その中で身近な問題のいくつかを紹介します。

住民に寄り添った 収納対策の強化を

国税から地方税への税源移譲で、町税や各種利用料などの滞納解消は重要課題となっています。

しかし19年度には、あらたに学童保育利用料にも滞納が発生しました。

町は、県個人住民税等整理回収チームの指導をうけ、悪質滞納対策の技術向上を目指しています。

正直者が不公平感を感じないよう、法に基づいた強制執行と併せ、他の自治体でおこなわれている多重債務解消の支援や、保育料、利用料等の適正価格への引き下げを求めました。

消費者生活相談員の 有効活用を

他市町に先駆けて導入した消費者生活相談員に対する相談が53件ありました。相談員による的確な対応によって被害を最小限で食い止めることができています。多重債務の相談にも利用できることをもっとPRする必要があります。



電話でも相談を受けている消費者生活相談員
— 生活安全課 —

国保税に 申請減免制度を

19年度の国民健康保険税は、収納率93・76%でした。

国保税は、前年度の所得に課税される仕組みになってきていることから、年度途中に廃業やリストラにあつて所得が急激に減少した場合に、国保税を減額もしくは免除する仕組みを検討します。

複数施策で 住民の足の確保を

路線バスとそれを補完するコミバスは、通学生や交通弱者にとって欠くことのできない、極めて重要な足です。

経費を削減するため西脇直行バスの土・日休止や、巡回コース減数などの工夫がされています。また福祉タクシーチケットは、原則初乗り運賃への助成であることから、利用者が限られています。これまで同様タクシーはもちろん、路線バス、コミバスの他、ボランティアでまかなわれている移送サービスにも使える共通チケットに、早急に移行することが必要です。

企業誘致の促進を

町内には、企業誘致に適した土地が60筆あります。企業立地促進法に基づいた「基本計画」が国に採択されれば、誘致企業や町は、さまざまな財政支援を受けることができます。

現在町は、「地域産業活性化協議会」や、県とこの基本計画について協議を重ねていますが、基本計画の作成を急がなければなりません。

町が造成した宅地の完売を

町によって合併以前に造成された宅地が、中区の貝野団地で1区画、加美区ハイランド「加美の郷」で13区画残っています。これらの宅地についても毎年管理費が必要です。町は完売に向けて積極的な努力が必要です。

ウッディハウス(加美区)は廃止も視野に

ウッディハウスは、徐々に一般の利用者が減少し、今は管理委託先が利用するのみの施設になっています。指定管理料は、年額105万円ですが、廃止も視野に入れた見直しを検討中です。

婦人会への集金業務委託は廃止を

現在加美区のみならず、上下水道料金の集金業務の婦人会への委託が残っています。

町全体の制度ならともかく、一地区だけに残っていることを、そのままの検討もせず、継続しておこなっている町の姿勢が問題です。

集金業務は、町の責任でおこなうべきです。



利用者を待つウッディハウス



文化の拠点ベルディーホールにみなさんおこしです

自主公演に採算性の視点を

毎年実施されているベルディーホールの自主公演は、協賛金と入場料では、採算がとれていません。

ルの文化事業は、町の文化育成にとって非常に大切なものです。

さらなる工夫が必要です。

しかし、ベルディーホー

来春の開局に向け CATVを整備

9月補正予算

歳出

款	補正額	備考
議会費	17万円	共済費の増額
総務費	4億8,788万円	ケーブルTVの整備他
民生費	3,222万円	保育園児、高齢者の増加に対応するもの
衛生費	1,069万円	診療所への繰り出し
農林水産業費	△1,332万円	事業調整による減
商工費	△242万円	
土木費	1,825万円	道路の修繕箇所の増加に伴う増
教育費	1億9,247万円	温水プールの改修
諸支出金	31万円	基金積立金

補正予算

温水プールの 改修決定

来春の開局に向けたCATVの整備への補助に5億4000万円、加美区の温水プールの全面改修に1億5000万円を含む総額7億2000万円の補正予算が提案され、審議の結果、賛成12人、

反対5人の賛成多数で可決しました。

加美区温水プールは、老朽化が進んでいる建物部分を改修し、健康教室、太極拳、ヨガ教室などのスペースを作ります。

条例

ふるさと多可町 応援寄附条例を制定

町では、杉原紙などの伝統文化を守る「なつかしふるさと応援コース」、敬老の日発祥の町として福祉施策を推進する「あつたかふるさと応援コース」、特産品の開発や地場産業の支援に使う「いきいきふるさと応援コース」を設定して、町内外の方

らの寄附を募ることになります。
全員賛成で可決しました。

岩座神に携帯電話 基地局を設置

加美区岩座神にauの基地局を設置します。
全員賛成で可決しました。



岩座神でau電話が使えるようになります



改修を待つ温水プール

反対討論

**改修は最小の経費で
類似施設は不要**

高澤 栄子

プールは加美中も使用しているので改修は必要だろつが、各種の体操を目的としたスタジオの設置は必要ない。温水プールであること自体が付加価値を持つもの。同様の教室なら他の施設でも十分対応できます。改修は最小の経費でするべき。

反対討論

**地方税電子化協議会
は必要ない**

安藤 弘道

来年10月から、住民税も年金からの天引きになります。少額の年金受給者にはつらい制度ですが、年金から税を天引きするために新設される地方税電子化協議会は、早くも社保庁の天下り先と言われており、必要性を感じません。

反対討論

**この保守性が
町を衰退させる**

池田 義孝

明らかに不合理と認識しつつ、しょうがないから賛成するという、保守性がこの町を衰退させていきます。国や県でも悪しきは正す気概をもつべき。閉塞感に満ちた世の中を変え、新しい町をつくる心意気を持つための警鐘として反対します。

賛成討論

**電子化による税の
特別徴収は必要**

大西 一好

現在、地方電子化協議会には47都道府県25市1町が入会。年金から税の特別徴収システムの統一化と社会保険庁からと、市区町村からのデータを一元化し、正確かつスピーディ化するものであり、積極的な設置を必要とします。

議員定数等調査特別委員会を設置

議会では、4月以降、行財政改革調査特別委員会で議員の定数について調査を続けてきました。

行財政改革調査特別委員会は、「議員定数を削減すべし」とした調査結果をまとめ議長に提出しています。

これを受ける形で、12月を目前に、来年におこなわれる町議会議員選挙での定数を見直すべく議長を除く全議員で構成する議員定数等調査特別委員会を新たに設置しました。

10月10日に開催された第一回の委員会では、委員から「住民に求められている議会の果たすべき機能について検討し、改革していくべきではないか」という意見も出されましたが、「近隣市町で議員定数削減の動きがあ

る中で、まずは議員定数を削減することから議会の改革を」という意見が大勢をしめました。

しかし、充実した審議のためには人数を増やすべきとの意見もありました。

また議員数を削ることで、得られる財政的な効果は限られており、むしろ行財政改革を求める声小さくなることの方がデメリットが大きいという意見や、定数が少なくなれば、立候補すること自体が困難になり、多様な意見が反映されない、などの意見もありました。引き続き議員定数について検討を重ねます。

こんなんでない これどうなってるの

9月定例議会での一般質問は、
9月24日に行われ、12人の議員
が行政全般について質問をしま
した。



玉臺正明議員

坂本山野部線の 整備を急げ

玉臺 加美区と八千代区をつなぐ、坂本山野部線整備に寄せる地域住民の期待は大きい。取り組みの具体的内容は。

最優先課題として
取り組めます

町長

坂本山野部線は、最優先課題として取り組んでいます。

本年度実施される概略設計を完了後、ルートについて議会や地元の説明します。ご了解がいただければ、12月議会に詳細設計のための費用を計上します。

詳細設計などには約10カ月かかり、その後保安林解除手続に着手します。工事の着工時期は、順

調に進めば、平成22年の後半になります。トンネル案の場合は、着工から完成まで約3年かかります。平成25年度の3月頃の供用開始をめざしています。



急な坂、急カーブが解消されます



大西 一好議員

この道路は
拡幅しなければ



車1台でいっぱいです

大西 岸上北はりま養護学校線は、3・5mの幅員の中に通勤車・通学バス・徒歩と多くの人が使用します。安全安心とは、かけ離れた環境です。改善の必要があるのでは。

今後努力をします

町長

本来は、開校に合わせて県が拡幅すべきものと思います。平成13年の県への要望で、現実味を帯びた話となりつつあったやに聞いています。多くが学校関係の車で、地権者からの協力が得られるかどうか。280mを町単独事業で実施することには無理があり、今後県へも粘り強い要望をしていきます。

特別支援教育の
現況は

現況は

大西 行政が連携して地域の子どもたちを支援する体制の整備は進んでいますか。

就学前・就学後・卒業後について、学校の観察結果と親の意識のかい離

をどのように調整して
いますか。

一人ひとり注目して
取り組んでいます

取り組んでいます

教育長

校内委員会の設置・児童生徒の実態把握・コメディネーターの配置・個別支援計画・指導計画の策定・職員研修等に取り組んでいます。保護者との連携については、もっとも難しく受け入れ難いものがある中で、学校園の様子を細かく連携したり、授業参観をしてもらいます。

都市との
交流進展へ

交流進展へ

大西 15億円の予算を使ったラベンダー園・取り付け道路の建設で、入園料無料とは町民の理解が得られるのか。また、県財政悪化の中、丹波加美線の今後はどうなりま

無料は
初年度のみ
の措置

町長

入園料の設定については、もっと意見を聞いて研究すべきであったと反省しています。焦ることなく来年に向けて十分な研究と調整をし、理解の得られるようにします。丹波加美線につきましては、県の社会基盤整備プログラムに乗り、順次整備される予定です。



開通が待たれる丹波加美線



秋田 清議員

転作作物の最低価格 補償制度の創設



たくさん実をつけている黒大豆

秋田 農家にとっては、肥料の高騰や、米価の低迷が続く、農業を取り巻く環境が、非常に厳しくなっています。転作作物として黒大豆や小麦等が栽培されていますが、気候に左右され、価格の変動も大きく、集落営農組織を維持することは大変です。最近では作付け面積が増え、かつてのような利益は見込めず、農業災害に対する保険はありませんが、価格暴落の補償はありません。農協、町等が出資して、最低価格補償制度を設けることはできませんか。

価格補償制度の 創設は難しい

町長

旧加美町にはありませんが、利用が少なく、合併前に廃止しました。特定の作物に価格補償制度を設けるのは、難しいと考えています。

コミバスを減便し 福祉車両の充実を

秋田

利用者の少ない路線は、減便または運休止し、それに変わる福祉バス、タクシー、デマンドバス、社協にある外出支援車等の充実を。

公共交通のあり方を 再検討する

町長

運賃助成制度は、バス利用の促進に、大きな効果がありました。コミバスも、万能的な公共交通とは思っていません。コミバスの運行で採算を取ることとは、難しいと感じています。しかし、一方では



万能的な公共交通になってほしいコミバス

運行による費用対効果は、補助金額や乗車人員等の目に見えるものだけではありません。福祉バス、デマンドバス、外出支援サービスとの連携をとる中で、体制を構築していきます。公共交通の新たな手段、コミバスのあり方を再検討していきます。



門脇幸澄議員

指定管理料の見直しと改善策

門脇

20年度の指定管理料は、3261万円も増え1億6949万円です。

- ①加美区の施設だけで1億2000万円以上を占めます。指定管理料の売上げに対する割合の基準は。
- ②青年の家と温水プールは、食堂の売上げが落ち、サービスの低下がさやかれています。成功事例ですか。
- ③ラベンダーパーク多可は開園早々に入園料が無料化され、毎年2350万円も指定管理料が必要。見通しの甘さと、責任の所在を明らかにすべき。
- ④なごみの里は管理料がゼロで、基金を取り崩して赤字を補てん。管理料を見直し、お風呂等の有効活用を考えては。



自然の中でゆったりした気分—ブルーメンやまと—

管理料改定基準を

検討します

町長

①管理料は、委任行為で単

- 純に割り出せない。改定基準は今後検討します。
- ②青年の家等の管理料は減りましたが、評価が悪くなったのは引継の不十分さにも原因があります。
- ③無料化は調整のうえでやりました。今後に期待していただきたい。
- ④利用方法を検討、ブルーメンやまとの償却積立ができるよう指導します。

特別賃貸町営住宅の家賃改善

門脇

特別賃貸町営住宅は現在八千代区と中區に6軒の空き家があり、3カ月以上収入がありません。原因は家賃が9万円台と高額のためです。有効な対策を。

入居者負担額を

見直します

住民課長

このまま空き家を続けることは、町にとって不利益になるので、入居者負担額の見直しと、環境整備を検討中です。

公用車の削減計画の

実行を

門脇

3年前に「公用車が125台から1年をめぐりに85台に減らす。」

という答弁がありました。3年後も101台もあり、もっと早く実行すべきです。

公用車削減に

努力します

総務課長

101台のうち、1

台は原付バイクです。車は100台です。また町バス・幼児園バスなどを除けば83台です。今後削減に努めます。



適正規模の公用車を



高澤 栄子 議員

有機農業を推進せよ

高澤 国や都道府県、市町村が有機農業を推進する責任を負う、という法律ができて2年。基本方針では、市町村の50%で有機農業の推進計画と推進体制を持つことが明示されています。

産地の偽装表示や無認可添加物の使用、事故米の食用としての販売等、食への不信や不安が多い社会環境の昨今。今だからこそ、食の安全安心、信用につながる有機農業の推進をはかるべきです。

①まず実態調査をすべき。
②有機農業推進の基本と



有機農産物を町の特産品に

なる支援活動等を盛り込んだ町独自の基本計画を立てる考えは。

③農業と産業を連携させ、地場産業として発展させるような施策を。

**実態調査から
取り組んでいきたい**

町長 有機農業の必要性はわかるので、現状の把握、実態調査から取り組み、計画については、どのような形で推進していくか、素案の検討を進めたい。

**パブリックコメントの
制度化を**

高澤 パブリックコメントの制度化は、町民の多様な意見を町政に反映させることや、町民に町の説明責任を果たすこと、透明で公正な行政運営に

もつながら。その理念と趣旨の徹底のためにも制度化すべき。

直ちにとりかかる

町長 今後の施策展開の上では、住民からいろいろな意見をいただくかねばならない。その絡みの上でも、パブリックコメントの制度化については直ちに調整、取りかかりたい。



さあ これからパトロール開始

**守られているのか
子どもの安全**

高澤 これまでの学校・園に常駐型の「見守りおじさん」から、学校・園・保育所、公園の巡回型となった「見守り・安全巡回パトロール」事業。間口が広くなった分、校内の安全という本来の目的部分が薄くなっているのでは。

**すべての子どもを守る
ための方向転換**

教育長 多可町には入り込む隙がないということを経験発信していくためにも方向転換しました。ベストの方法だと思っています。

防災組織だけが
北はりま圏内統合に



大西多津子 議員



準備体制は万全です

大西 三木防災センタ

ー統合に向け、着々と進む、医師不足の対応、中核病院、北はりまに向けて広域、道州制の動きも動向として考えられます。医師の空白の現実、専門医院への搬送、都市部との災害時、救急車等、脈々と進む統合の中、多可町として、消防車、救急車の早く来れる便利なシステムの構築し、若者の生命の救急対応を考える必要があるのでは。

自立への基礎

づくりが課題

町長

多可町は、広域になれば一番周辺になります。周辺部の問題を先に解決しなければ、大変なことになると考えられます。

自立への基礎づくりというのが消防防災の問題だけで見ても、見えてきた気がしてなりません。

少子化による

学校運営は

大西 耐震化で、各区

幼小中学校も、改築工事が施工されていますが、少子化の中で、統合、と用途の見直しを考えては。男女共同参画の時代にマッチした子育て支援を考えるとき、教育、福祉の学童保育を放課後、空教室の対応を考えられませんか。多可町としての



ほくもわたしもがんばったよ

特色の一つとしては。

空き教室の活用は

中長期の視野で検討

町長

教育委員会も独自の考えがあるようです。また学校の耐震化工事には早急に対応していきます。

都市と田園の

交流のアクセス

大西 427号、17

5号線につなぐ道路整備、やはり住民の夢を叶えること。10年、20年を見据えた改築と、少子化の時代に町の活性化、人口を増大させる施策が必要。住民のための政治と設備投資も必要。バイオマスタウンの発展を考えるなら、人口を増大させる施策は、今私達が考える大きな問題と課題です。

町の特性の

PRは重要

町長

町民の夢を叶える道路整備は必要です。国道へのアクセスも重要であり、また、バイオマスタウン多可を広くPRすることも必要だと考えています。



竹本克之議員

男女共同参画に 地域役員は

竹本 町長は、男女共同参画社会の構築にむけて、10年間の数値目標を設定してはいますが、その基本となる条例の制定について、用途は持っていますか。

また、集落役員に女性は皆無と見受けられますが、区長会や地域協議会、婦人会等に対して、女性参画について問題提起していく考えはありませんか。

総参画型社会の 啓発に努める

町長

条例制定は手段であり目的ではなく、作る過程が

共同参画の一つの道と位置づけ、作ったときには実効性を持たせたい。条例例はまちづくり基本条

例の策定と合わせて考えたい。

戸主からなる組織には参画が極めて難しいが、女性にはむらづくり協議会など、お入りいただき集落づくりを願いたい。

しかし、一戸一票制から一人一票制に時代は変わりつつあります。

総参画型社会の啓発に当たります。



男女共同参画研修会

— すぐきな生き方を

— するために —

国民健康保険の 黒字会計は

黒字会計は

竹本 多額の滞納と欠損処理をしているにも関わらず、今期決算も黒字会計です。善良な納税者から徴収するだけでは、正直者がバカを見ることにはなりませんか。

悪質な滞納者には厳正な徴税を課すべきと思いますが、町長の考えは。

強い姿勢で臨む

町長

保険料設定は、国保運営協議会で協議をして決定しています。

不納欠損処理をしていますが、本来は居所不明となる前に手を打つべきです。

すべての徴税について全課全職員をあげて、例えば水道の例なら、閉栓

するなど、強い姿勢で臨ませていただきます。



国保会計はみなさんの医療を

— 支えます —



池田 義孝 議員

知恵をしぼろう

池田 ラベンダー園に「カーボン・オフセット」付き入場券で入ってもらえばよい。CO₂削減に貢献すると思えば料金を払う気にもなるでしょう。



CO₂削減に企業も動いています

長期課題として検討

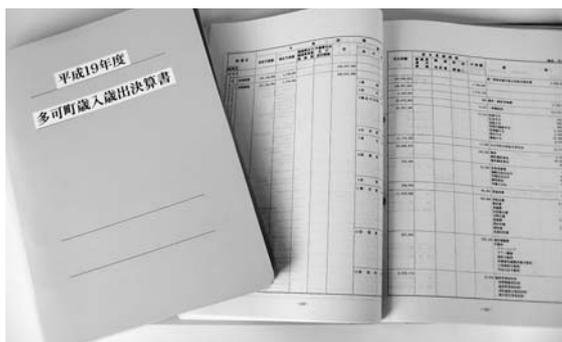
町長

カーボン・オフセット部分は寄付金となり、それに見合ったCO₂削減活動が必要かと思えます。別に協議課題が生じるゆえ、中長期課題として検討します。

**固定費で
身動きできない**

池田 経常収支比率93・2%は固定費で硬直し、全く柔軟性がない。将来展望など無理。固定費(人件費、指定管理料、道路及び建造物の維持費等)を削減すべきです。合併から3年も経て、適正人数を3割以上も多しなどは異常です。採用をストップすべきです。仕事の外部委託も検討されているが職員過多のまま

で委託などすれば固定費が膨れるのみです。町長自らが給与カットなど、先頭きって意識改革しなければ固定費削減の流れなど生まれません。車所有台数がピークを過ぎ、20年も過ぎれば極端な減少が予想されます。道路建設ばかりに力を入れていないと、維持費もままならない時代が待っていることになります。



19年度決算書

財政の効率化は
当然の課題

町長

財政の効率化と住民自治にかかるコストをどうバランスさせるか、行政体の判断があります。今、採用を止め必要時の中途採用では、適正な配置が無理。

私の給与は報酬審議会での協議に委ねたい。当町は唯一高速道路の無い町で、道路建設は基本の社会基盤整備と考えます。



安藤 弘 道議員

多可町の農業施策を問う

安藤

小泉政権の三位

一体の姿が多可町の耕作田に見られます。稲、ヒエ、雑草と三種混植の様子、多可町の有機土づくり事業。農地、水、環境保全に、営農活動支援に出ている補助金交付金は機能していますか。また、検証されていますか。

昭和27年に施行された農地法、改正を重ね減反政策を取り、急峻狭小の国土地形を顧みず、机上で農家の拡大を考え、兼業農家の耕作意欲をそぎ、遊休農地、放棄田へと追いやりました。

美しい田園風景を維持してきたのは零細農家。補助金、交付金対応より税制面で恒久的な政策が必要と思います。

農業は

日本文化の基礎

町長

農業は日本文化をつくってきた。減反政策も今後大きな課題になります。有機土づくりの方向性は間違っていない。事業農家に依頼も辺地の農地には難しい。集落営農に頼るも、個々の田に愛着心が薄くなります。制度で文化は守れません。



ヒエ対策に悩みます

コミバス利用増の

施策を

安藤

今の運行状況を変えるには、意識の変革と柔軟な発想が求められます。

具体的に伺います。

①今のルートをいつも満員で走ると売上げはいくらですか。

②職員の通勤に使えるダイヤを組んでは。

今後も努力します

企画情報課長

①満員走行

で5840万円の売上げになります。②職員の通勤のためのダイヤ改正は無理です。職員には、今のダイヤでの利用促進を啓発します。



おかげで移動が
らくになりました

菜の花栽培に応援を



廣畑 幸子 議員

廣畑 菜の花栽培は、バイオマスタウン構想の中に、「フラワーバイオマス」と位置づけられている重要な作物です。今年度、町内では小規模作業所などの栽培・搾油、また、集落での取り組みも始まっています。

菜の花栽培は、搾油だけでなく、耕作放棄田解消へのアイテムとして。また、資源循環型としても、大事な作物です。

しかし、軌道に乗るまでには、まだまだ時間がかかります。町としての今後の具体的な計画は、栽培面積を拡大するためにも、現在の町単独の助成金を見直しては。刈り取りに使う汎用コンバインを、長期事業として、町が確保する考えは。



菜種がたくさん穫れました - 加美区みどりの家 -

今年度は調整の年と位置づけ

町長

菜の花栽培は、初めての取り組みです。今年を実施の調査と捉えます。菜の花栽培のコスト・搾油コストなどを算定研究した上で、多可町としての

方向性を決めたいと思います。

集落の菜の花栽培への協力・支援・指導は、JAみのり、普及センター、町が連携して、できるかぎりおこないます。助成金は調整します。汎用コンバインは、デモ機械の導入を考えています。

昨年に続き受賞



受賞した議会だより第10号

第29回兵庫県町議会広報紙コンクールで、多可町議会だより第10号が「特別・中央文化社賞」を受賞しました。昨年に続いている受賞で、広報委員の編集活動にも大きな励みになります。

これからも、住民の皆さんに読んでもらえる、分かりやすい紙面づくりががんばります。



清水俊博議員

ゲリラ豪雨から 命を財産を



急激な豪雨で削られた土手 一八千代区一

清水 夏休み間もない神戸で、児童らが濁流に飲まれ5人もの尊い命が奪われました。東京・石川など全国各地で被害続出しています。いずれも急激な豪雨による増水がもたらしたものです。5人を

飲み込んだ濁流は「10分間に24ミリ」、正に記録的豪雨、出先が見えない、防御が非常に難しい、正に「ゲリラ豪雨」「テロ豪雨」です。これまでの物差し・対策では対応しえない現実。住民の命を守るすべはないのでしょうか。地球温暖化・亜熱帯化・現在の河川構造など、全国どこでも起こりうる事

故ともいえます。山間部、急傾斜地、天井川等危険と想定される箇所を数多く抱える本町危機管理・対策・ツール類の整備が必要と思いますが備えは万全ですか。

教訓を生かし

防災に努める

町長

今後共、これらの事故を

貴重な教訓として受け止め、危険箇所への「表示板」設置等による危険意識喚起など短期的に対応を要するもの、またツールの整備、防災教育等、中長期に取り組むべきものなど、ソフト・ハード施策を適切・効果的に対応していきます。しかし、現実を見ると決して万全でないことは十二分に認識しています。

議会からのお願い

議会だより取材のため、腕章を着用した議会議員が写真撮影に伺うことがありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

次の定例会は12月に開かれます。
みなさん傍聴にお越しください。

くわしくは事務局まで連絡ください。

議会事務局 32-4775



総務

中町南小学校

耐震補強
大規模改造工事

6月から準備工事に入り、夏休みに入ると同時に中学校舎の各教室も含む解体・内外装工事に入り、8月末には完成し、2学期の授業に差し支えないように整理しています。今まで3回現地視察しました。

工事概要は

答 耐震補強工事は鉄骨ブレースを3カ所増設し、柱補強1カ所、壁と柱を分離するスリットを1カ所新設し、建物のバランスを保つ設計をしています。

大規模改造事業は、老朽化した内外装・天井・床・電気設備・家具等改修し、トイレの増設、渡り廊下を改修し、バリアフリー化のためにエレベーター設置をします。

北校舎については、トイレの改修・給食配膳室についてはスロープも設置し、運動場南側水路も一緒に改修します。



安全な給食しっかりといただきますー八千代北小学校ー

給食に汚染米混入卵焼きは

食の安全を強く求められており、先進国であるわが国の倫理観のお粗末さが露呈した事件。

問 汚染米混入給食卵焼き使用は、県内11市4町に広がっていますか、本町への影響は。

答 事故米から製造した米でんぶん入り卵焼きは、加西・西脇・三木・加東市でも給食に提供されていました。本町の場合、調査した結果、島田科学工業(株)納入の手巻き寿司用卵焼きに使用された「でんぶん」は、うるち米であり影響はありませんでした。

厚生
学生

朝来市の認定子ども園に学ぶ

委員会では、子どもの人数の将来見通しをもとに、町内の保育園、幼稚園の統合について検討しています。

7月16日には、市内の保育園と幼稚園を地域ごとに統合して、認定子ども園への移行を目指している朝来市に事例調査に行きました。

保育園は、保護者の就労の関係で「保育に欠ける」幼児の保育をする施設ですが、認定子ども園は、保護者が働いている、いないに関係なく受け入れることができ、教育、保育を一体的に提供できます。また保育料は、各園が独自に設定することになっていて、視察に伺った朝来市の認定子ども園での保育料は、最高でも約2万円という設定でした。



元気いっぱい ハイジャンプ！ーあさか保育園ー

複数の幼稚園、保育園を統合すれば、小規模園では難しい複数の担任団で、園児の教育、保育方針を検討することができます。

町内には、まもなく耐用年数を迎える幼稚園があります。この施設の建て替え時期を目途に、複数の幼稚園、保育園を統合した「認定子ども園」を開設するべきか、さらなる検討をおこないます。



水は大切に — 水道漏水工事 —

産業 建設

どうなった

アクセス道路

— 坂本・山野部線他 —

合併協議会の中で協議されてきた「坂本（八千代）・山野部線」。八千代区と加美区、そして中区を結ぶ道路です。進み具合を聞きました。

ルート等を十分に調査、検討のうえ、合併特例債事業として、実施することです。

現在、ルート・工法についてほぼ決定し、今後は地元区長、地域住民の皆さんへの説明会等を計画しています。

どうした

緊急修理多発

— 簡易水道事業 —

加美区内の簡易水道で、本管の漏水により、緊急の修理を要する件数が、中区・八千代区に比べると多いので、委員会では、どこに原因があるのか質しました。

町からは、加美区内の水道工事で、経費等の関係から在来土による埋め戻し工法を取っている。そのためではないか、との答弁がありました。

委員会では、はっきりした原因の追求と、取り替え工事についても、早期に検討する必要があるのではないかと意見しています。

行政 改革

信頼される

議会に

多可町も合併後2年半が経過し、町の全容が見え、いよいよ多可町の全体的な改革を推進する必要性に迫られています。

年度当初より、施設や、有休借地等について調査を実施、利用度が低く休眠状態の構築物や、借地については速やかに撤去または、返還すべしとしました。

次に、議会改革についての調査に着手、当町と類似規模の県内外の町の視察研修を実施し、改革の実施状況や手法についての調査研修を行いました。

前号でも報告のとおり、ますます専門化する行政課題に対応するためには、委員会制は必要との意見はどこでも共通していました。

また、現在の厳しい財政状



傍聴者が見守るなか定数を議論

況のもと、住民負担の増加は避けなければならぬとの意見も共通していました。

1月から4カ月におよぶ調査結果や、近隣西脇市の動向などをも参考に、委員全員の意見を聴取しました。

その結果、委員会としては議員定数について、全議員で調査検討すべきと提案しました。

なお、行革委員会では、引き続きその他の行財政改革の調査を実施します。

大屋の武者行列

今回は、八千代区大屋の区長さんに、むらづくり活動についてお聞きしました。



古色豊に武者行列

10月は祭りの季節。12日に武者行列がおこなわれると聞いて取材に行きました。

◎日頃はどんな活動を

大屋は、笠形山の山麓にあり、自然豊かなところです。特性を生かした、大屋ならではのイベントを企画しています。

◎どうして武者行列を

加美区的場の二宮神社にまつわる伝記で、その

昔、坂上田村麻呂が奈良、姫路より大屋に来て、7人の家来を連れて二宮神社に参詣したのが由来とされています。

その古事にちなみ、毎年体育の日の前夜、鎧武者1人と6人の家来の7人で武者行列がおこなわれています。

午後8時から神事、武者行列、こども奉納相撲があります。

伝統行事として、守りつないでいきたいものです。

◎他にもたくさん行事があるのですが

8月の盆踊りは、帰省客も参加する大イベントです。みんな楽しみにしていますね。

春の笠形山登山は、気候もいい時期で、昨年は160名の参加があり、山頂を埋め尽くす賑わいでした。また、途中には竜ヶ滝や二重ヶ滝もあり、自然を満喫してもらえま

すよ。

これからも、かみテレビなどでPRして、加美区や中区からの参加者ももっと増やしたいです。

これからも、大屋むらづくり協議会を中心に、みんなが積極的に参加できるイベントを考えていきたいとおっしゃっていました。がんばってください。



福もちをキャッチ

編集後記

9月定例会では、主に平成19年度の決算審査や、補正予算の審議をしました。

国、県の補助金や交付金が縮小される中で健全な財政運営を期待しながら、事業を進めていく町の努力も見られました。実りの秋、特産山田錦の刈り取りも終わり、秋本番です。空気が澄みきったこの秋空を、後世にまで残していきたいものです。

そのためにも、一人ひとりが温暖化防止、CO₂削減に、身近なことから取り組んでいくことが大切だと思います。

朝夕めっきり肌寒くなってまいりました。くれぐれもお体をご自愛ください。

秋田